

デジタルとリアルの融合！多世代のつながりと共助で支えあうまちづくり 「箱根町子育てシェアタウン」

取組主体：株式会社 AsMama×神奈川県箱根町

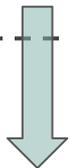
少子高齢化のため1975年頃には約2万人だった人口が現在は約1万1千人、小学校の中には生徒数が10人を切っている学年もある箱根町。観光地で共働きが多く、従来の園・学校以外の保育サービス不足や休日の子どもの過ごし方が課題のほか、少子化に伴い子ども会が廃止になった地域も。町内在住者の満足度を上げる施策、出生数を増やして自然増につながる施策として、自治会・地域・世代の枠を越えた町全体の連携・協働を、アプリや知見導入だけに留まらない AsMama独自のフィールドワークと伴走支援で、地域活動の担い手と地域住人の緩やかなつながりを増やし、子育てや暮らしを頼りあえる交流の場や機会の創出に官民連携で取り組んでいる。

課題
や現状



- 観光地として週末・休日は交通渋滞の問題があり、自治会・地域を越えて町民が移動を割ける傾向がある
- 一方、各自治会・地域の枠内では活動の担い手不足が著しく、従来の地域活動の継続も困難なケースがある
- 現地ヒアリングでは高齢者・事業者を中心に「子育て/子育て支援は自分には関係ない」と断言する傾向が高い

解決策や
アイデア



- 町全体で多世代がつながり子育てを含め暮らしを支えあう機運醸成と、その主体となる自治会・地域・世代の枠を越えて活動可能な多世代・多様な活動の担い手（認定シェア・コンシェルジュ）の発掘・育成
- 子育て支援・暮らし支援につながるリアルな交流の場・機会づくりや、託児や食事支援等のダイレクトな支援の場づくりを、地域ごとに巡回して実施。参加する町民は移動の問題を解消でき、自身の可動地域内で機会を享受
- デジタル・アプリと広報誌・回覧やポスター・チラシ等の紙媒体を組み合わせたマルチチャンネルでの情報発信と、アプリを活用した安心・安全かつ利便性の高い子育てや暮らしのシェアリング（共助）

取組状況
や成果

- 共助プラットフォームであるマイコミュアプリ「箱根町子育てシェアタウン」登録数は582世帯、自治会・地域の枠を越えた町全体での活動の担い手「シェア・コンシェルジュ」認定者は41名、取り組みを応援する地元事業者「地域パートナー」登録数は53事業者。交流の場・支援の場の参加者は令和6年度単年で延べ100世帯・300名以上、ボランティア登録9名中5名が年度内にシェア・コンシェルジュとなり担い手転換率は5割以上。
- 単なる子育て支援サービス提供ではなく、リアルとデジタルの両軸で地域住民・企業・自治体が一体となって支えあう「はこねっこ みまもる一む」「一日先生」「ゆずるよ週間」等、独自のコミュニティモデルを確立

取組事例1: 若者もシニアも共に参画する子育て支援の場「はこねっこ みまもる一む」

取組概要

- 親子一緒に参加または託児(子どものみ参加)を保護者が選択可能
- 隣接する小田原市のNPOからの食材提供協力と町内のシェフ人材協力により参加親子および活動の担い手に対してランチ無償提供が実現
- 0歳～小学生の異年齢交流で成長体験、高学年の地域活動の活躍機会
- 季節のワークショップや学び、自宅ではできないダイナミックな遊び
- 学生・独身者・親子・シニアなど運営の担い手は多世代
- 温泉旅館のチェックアウト～チェックインの間のアイドリングタイムを活用して地域パートナー事業者が開催場所を協力提供する地域も

実施体制イメージ



取組事例2: 町民のキャリアや経験を遊休時間に子育て世帯へスキルシェア「一日先生」

取組概要

- 町民が一日だけ講師役となり子育て世帯に対してキャリアや経験をいかしたスキルシェアを行う
- 継続的な地域活動は困難でも、仕事が休みの日や子どもたちの長期休暇に合わせて「一日だけなら」という参画形態で、令和6年度は、書道、抹茶(和文化)、アート制作、食育(クッキング)、人力車体験等の多様な「一日先生」が実現
- 習い事の少なさや送迎負担の大きい箱根町の子育て世帯・子どもたちに対し、プロ・セミプロ町民による学びと体験機会を提供
- イベント企画や集客はAsMamaが、広報支援は箱根町が協力することで町民の自己実現も同時に叶える

実施体制イメージ



取組の詳細

取組事例3: お財布にも環境にも人にも優しいローカルモノシェア「ゆずるよ週間」

取組概要

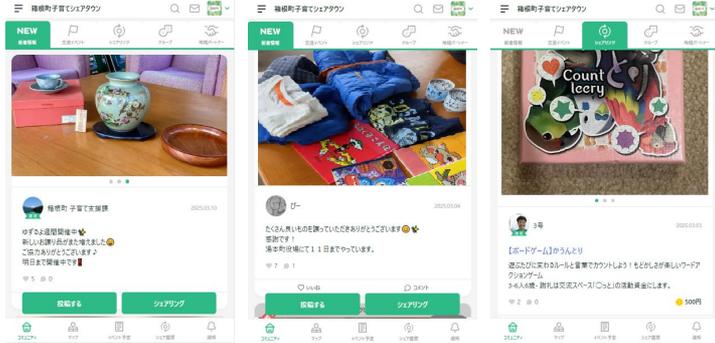
- 新年度準備や物価高対策としてマイコミュアプリの「譲るよ」機能を活用したローカルモノシェアを促進
- 「アプリで簡単にシェア成立し受け渡してきた」という町民の声がある一方で、シニアを中心にアプリが苦手な町民も一定数いるため、役場の住民交流スペースにて、持ち込み・引き取り自由のリアル「ゆずるよ週間」を実施
- 多世代・他団体からの直接持ち込み、地域住民の引き取りと、アプリを活用した募集・成立がハイブリッドで実現し、他地域での開催希望や、環境課・町民課など他課からの継続的な取組連携やアプリ活用検討の声が寄せられた



実施体制イメージ



▼ 直接のモノ持込も受付 ▼ 地域住民、AsMama、箱根町が連携してアプリでも配信



衣類・玩具・DVD・絵本・本・スポーツアイテムなど子ども・子育て世帯向け用品のほか、食器・花器・音楽CDや缶詰などは多世代で興味・関心事でつながりながらシェアリング

持続可能な取り組みとするためのポイント

多世代がつながり町全体で支えあう共生・共助の「箱根町子育てシェアタウン」モデル

特長 自治会・地域・世代の枠を超えた町全体の連携・協働を、アプリ導入や知見導入だけに留まらない独自のフィールドワークと伴走支援

持続可能な取組を見据えて担い手主体はあくまでも地域住民とし、自走困難な部分をAsMamaが伴走支援、機運醸成のための取組周知や広報・集客支援は箱根町と協働し、三位一体で行っている。伴走支援は永続的でなく3-5年で自立自走型を目指す。

週末・休日の交通渋滞が大きな課題の箱根町において、町民が可動地域内で機会を享受できるよう、子育て支援・暮らし支援につながるリアルな交流の場・機会づくりや、託児や食事支援等のダイレクトな支援の場づくりを、地域ごとに巡回して実施。

町内5つの地域区分のうち子育て世帯の多い仙石原・湯本の2エリア(赤丸)を初期モデル地域とし、同一イベントでも「仙石原開催」「湯本開催」を順番に開催。少子化により子ども会が廃止された宮城野地域においても、

町民からニーズが寄せられたため、**第二フェーズのモデル地域として宮城野(青丸)に横展開しエリアを拡充**。取組を応援する各地域の事業者は「地域パートナー」としてポスターや特典で協働。

それぞれの地域に応じた運営スキームや孤立孤独を防ぎ安心安全に子育てや暮らしを頼りあうための共助プラットフォーム「マイコミュアプリ」の使い方練習や体験を、知見を持ったAsMamaスタッフがOJT形式で地域活動の担い手「シェア・コンシェルジュ」および地域住民に浸透するまで伴走支援を行っている。既存の地域活動や観光協会とも協働し、町全体で共生・共助の取組を周知。



▼町全体で支え合う機運醸成・取組周知の地域新聞「箱根町子育てシェアタウン通信」▼事業者もポスターや特典で応援

「温泉旅館みたく」池谷裕次さん
私が運営する旅館では、地域の皆さんとの交流を大切にしています。世代を超えた交流を中心に据えたイベントや活動は、地域全体に新たな活力をもたらす可能性があり、箱根町の未来を支える要素の一つになるのではないかと考えています。

「Kafé Fika箱根」三橋幸彦さん
箱根ならではの地域性を生かし、状況に応じた、つながり・助け合いができるようになればと感じています。困った時に声を出しやすい町、困っている人に手を出しやすい町になればなど。小さな活動同士の連携がとれるように、地域パートナー同士の集まりなども力になっていこうかもしません。

付記(任意)

- 子育て支援の共助を主軸とした「子育てシェアタウン」や子育て世帯を含む多世代の暮らし支援の共助を目指す「シェアタウン」モデルは、人口減少や少子高齢化、移住者と地元住民とのコミュニティ融合、地域モビリティの課題、有事の際の防災・減災・防犯に寄与する地域コミュニティづくり等に対して効果的である
- 地域住民や地域事業者や遊休地・遊休スペースという地域資源を活用することで、3-5年の伴走支援終了後は地域住民による自立自走型の共助コミュニティとして持続可能な地域づくりが実現
- 「箱根町子育てシェアタウン」のように、取組を応援する地元事業者が50事業者を超えると、活性化した地域コミュニティを活用したPR・広報や顧客開拓・ファンコミュニティ形成が期待され、例えば1万円×50事業者=50万円のようなコミュニティ維持拡大費の展開ビジネスモデルも見込める

参加者・担い手・地域住民の声

- 箱根町子育てシェアタウンの交流イベントに参加するようになって地域のつながりが増え、外出先でも声を掛け合うことが増えた。きょうだいが多く、目が届かないときに「見てようか」と言ってもらえることもありうれしい。
- 子どもどうしが同じ学校でも、お互い共働きで自宅を行き来して遊ぶのは抵抗や遠慮がある。交流イベントのチラシを学校でもらい子どもどうしで約束して、双方の親がアプリで予約をすることで、休日に一緒に遊べるようになった。仕事で連れていけないときに「代わりに乗せていこうか」という頼りあいもできるようになった。
- 休みの日や時間の都合がつく日は他の子の送り迎えや預かりも手伝いたい。
- 子育てはもう終わっているが、町がこのようなアプリや取り組みを応援してくれていることに感謝したい。
- 子育てや孫育ての経験をいかして今の子育て世帯を応援できる活動をさせてもらっていることが楽しみ。報酬がなくても地域活動として続けたい。
- 一人っ子で家ではゲーム・動画になりがちだが、友達と遊んだり地域活動の参加機会が増えた。

▼箱根町子育てシェアタウン 地域パートナー事業者(一部抜粋)

